第123回「村長とのふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1】原子力の平和利用促進に向けた取り組みについて

「原子力平和利用推進・核兵器廃絶宣言に基づく東海村の平和事業」のHPを見た。昨今、国際情勢の悪化や被団協（日本原水爆被害者団体協議会）のノーベル平和賞受賞など関連する報道も多く、社会的な関心の高まりを感じるとともに、東海村も積極的に行動してほしいと思っている。先日、中央公民館に「東海村はたちの集いで参加者に原水協（原水爆禁止日本協議会）の署名を呼びかけできないか」という旨を相談したところ、少なくとも今年度は時期も迫っているため難しいという回答であった。若者に向けて何か行動することはできないか。

⇒【村長コメント】

村としては、「原子力平和利用推進・核兵器廃絶宣言」はしているものの、主だった行動は特にできていないという状況はある。はたちの集いについて、事務局（中央公民館）はあくまでも行政の立場であるため、署名運動を扱うことは難しい。一方で、住民の方の自主的な行動から広がる運動であれば問題ない。村から署名を直接呼びかける事は難しいが、こういった平和利用の議論があるということ、村のできる範囲で実行委員会に投げかけることはできると思う。そのうえで、若者たちが話し合い、行動に移すということになれば、署名等の具体的な行動につながっていくと思う。時期的に今年度の実施は難しいが、対応を考えていきたい。

【2】-1 村道の除草について（村テニスコート付近→チューリップ保育園駐車場）

標記村道について、夏季は道路脇の雑草や雑木が繁茂し道路にはみ出しているほか、カーブミラーも覆われてしまうなど、視界が悪い状態となる。適切に除草・除伐してほしい。

⇒【村長コメント】

村道の安全にかかわるため、所有者を確認し、適切な管理に努める。

⇒【担当課コメント】

当該道路は、通行幅確保のため坂の上からテニスコートに向かって左側は、年2回除草作業を行っています。今回のご要望を受け現地を確認したところ、カーブにおける見通し不良やカーブミラーの視界不良を確認したので、令和7年度から右側の除草も実施します。ただし民地からはみ出す樹木が見通しを遮る場合は、当該地権者に対応を依頼します。

【2】-2 村テニスコート北側の松の木について

村テニスコート奥（テニスコート第2駐車場）の松の木が垂れてきていて、部活動中にボールを取りに来る中学生が危ないと感じる。

⇒【村長コメント】

村有地であるため、担当課に話をし、対応する。

⇒【担当課コメント】

現場を確認したところ、松の木につきましては差し迫った問題はないと判断いたしました。近接する桜の木の枝が垂れ下がっており、危険であることから、1月中を目途に該当箇所の剪定を行います。

【3】－1 PLATEUの東海村データについて

国交省が提供する PLATEU（プラトー。日本全国の 3D 都市モデルの整備・オープンデータ化プロジェクト）について、東海村のデータがない現状である。一般の方でも都市計画や、地域問題を 3D 空間上で検討できるなど、他分野で応用の利く便利なツールであるため、ぜひデータを公開してほしい。

⇒【村長コメント】

PLATEU については、都市計画のツールとして有用な手段であると認識しているが、利用方法は模索している段階である。現状、村の都市計画等の情報がデジタルデータとして整備されておらず、担当課とデジタル化についての協議を進めているところである。今後、デジタル化を進めていくにあたり、どこまでの情報をオープンにするか、PLATEU とどこまで連携するか等含め検討していく。

【3】－2 再生可能エネルギー関連イベントの開催について

東海村は原子力発電所が立地しつつも、再生可能エネルギー導入に注力しており、エネルギー問題に対する取り組みが魅力的だと感じる。村内公園施設や、太陽光パネルを設置している役場職員駐車場などで将来のエネルギーについて考えるイベントを行うことはできないか。

⇒【村長コメント】

役場職員駐車場の太陽光パネルは、土地貸し事業であり、事業者による再生可能エネルギーの取り組みとなっている。イベントについては、例えば職員駐車場を会場として、「とうかい環境フェスタ」を例年実施しており、エネルギー問題に限らず、脱炭素化、資源循環など幅広いジャンルの環境団体や企業ブースが出展するイベントになっている。国の動向としても、従来の発電方式と再生可能エネルギーとを合わせた複数軸でのエネルギー源確保が重要だとされており、村としても引き続き再生可能エネルギーの導入に取り組みたいと考えている。